

# インタープリテーション・ トレーニング・セミナー シラバス

2019年版

## ■セミナーの位置づけ

- ・ インタープリターを目指す人、インタープリテーション活動の計画や運営に係る方、インタープリテーションに関心のある人のための教育・研修。
- ・ インタープリテーション活動をこれから始めたい方、すでに施設等で活動されている方など、インタープリテーションに興味のある方ならどなたでも参加出来ます。
- ・ 研修カリキュラムは、自然公園や環境教育施設等における実践経験をベースに、アメリカ国立公園局との共同事業や、新しい研究成果によって、常にアップデートされた最新のコンテンツを提供します。
- ・ 研修では主として自然系の題材を取り上げますが、インタープリテーションを地域づくり、観光、ミュージアムなどに関連した幅広い概念としてとらえており、エコツーリズム、ジオツーリズム、サイエンスコミュニケーションなども視野に入れています。また、自然や環境そのものに関する知識はあまり扱いません。

## ■目的

講義や実習を通して、インタープリテーションの基本的な考え方、さまざまな場所で応用可能な基本技術を習得します。参加者それぞれの個性や得意分野を活かしたインタープリテーション・プログラムを考え、継続的に取り組む意欲を高めます。

## ■目標

- ・ 講義や参加者との交流、グループワーク等を通じて、インタープリテーションの広がり学びます。
- ・ 個人ワークでのインタープリテーション計画・実施の実習、コンサルテーション等により、プログラム作りの一連の過程をケーススタディします。
- ・ 実習を通じて、自らの課題を見出し、研修後の活動の方向性や最初のステップを明らかにします。

## ■研修スタッフについて

インタープリタートレーニングセミナーは、以下の様な複数のスタッフによって運営されます

**研修ディレクター**：研修全体の内容や進行を統括的に管理します。インタープリター、あるいは環境教育事業、研究などインタープリテーションに関する実務経験が15年以上、トレーナーとしての経験10年以上、もしくは研修会のトレーナー経験25回以上のキャリアを持つものが担当します。

**トレーナー**：研修中の、実習や講義、評価等を担当します。インタープリターとしての実務経験が5年以上、トレーナーとしてのOJTを十分受けたスタッフが担当します

**アシスタント・トレーナー**：インタープリターとしての実務経験が3年以上のスタッフが担当。

**ゲスト**：インタープリテーションに関連したゲストを招く場合があります

※参加者が少ない場合は、研修ディレクターとトレーナー（もしくはアシスタント・トレーナー）で実施する場合があります。

## ■配布予定のテキスト、資料等

インタープリター・トレーニング・セミナー・テキスト（オリジナル資料、A4：約90ページ）  
 インタープリテーション計画ワークシート 1、2  
 他、プログラム関連のワークシート、補助配布物など

表 カリキュラムに含まれる項目

<b>インタープリテーションの技術項目</b>  主として、実習として実施します。グループワークと個人ワークがあります。	解説実習1. 自己紹介（もっともよく知っているはずのことを解説してみる）
	複数のスタイルのプログラムの参加体験（ガイドスタイル、参加者主体、自然観察的なアプローチなど。内容は開催地によって異なります）
	解説実習2. インタープリテーションの工夫を考える実習（グループワーク）
	コミュニケーション実習：効果的なコミュニケーションを考える
	プログラム作成のための素材調査実習
	解説実習3-1. 自分の関心や特性を活かしたプログラムの計画（個人ワーク）
	解説実習3-2. プログラムの予行
	解説実習3-3. フィードバックとディスカッション
	解説実習3-4. 計画や予行に対するコンサルテーションと再検討
解説実習3-5. プログラムの実施	
<b>インタープリテーションの理解</b>  主として講義によって扱う項目です。実習と並行しながら扱います。	インタープリテーションとは
	インタープリテーションの歴史
	インタープリテーションのいろいろ
	インタープリテーションの特徴
	プログラムとは、プログラムと計画
	「テーマ」を基にした（Thematicな）インタープリテーション
	インタープリテーションと理論：TOREモデル、体験学習法
	トピック1：実施地の地域性や、担当スタッフの特性を活かした、情報提供等
	トピック2：インタープリテーションに関する新しいトピックなど
<b>インタープリテーションに係る諸活動</b>  ワークショップ的な手法と、スタッフとの対話によって、参加者固有の課題やニーズにアプローチします。	インタープリターとしての自らのポジショニング 個性を活かしたインタープリテーションを考えるため、それぞれのインタープリターとしての立ち位置を考えます。
	参加者同士の情報交換 参加者やスタッフとの交流を通して、幅広くインタープリテーションを捉える機会とします
	インタープリテーションの活動に関するコンサルテーション インタープリテーションの活動に関する個別の質問等に対応します